



Steins;Gate fanbook

You are There

For adult only

OKABE*KURISU



お、かへ...



ふあ...

んっ...



んっ...



なあ、紅莉栞

本当に
俺でいいのか？

お前は将来を
覗きされる身だ

やはり一介の
学生である俺では...



今ならまだ...

岡部

今ほどあなたの
脳に電極ぶっ刺したいと
おもったことはないわ

なッ



こ...っ!
こんな時に
恐ろしいことを
言うな!!

あんたこそ!
こんな時くらい
もう少し気の利いたこと
言えんのか!



嫌だったら...
最初からこんなこと
しないわよ...



だっ
大体



紅莉栖…

んっ
うっ

うん

…うん

うん

うん

うん

うん

うん…

うん

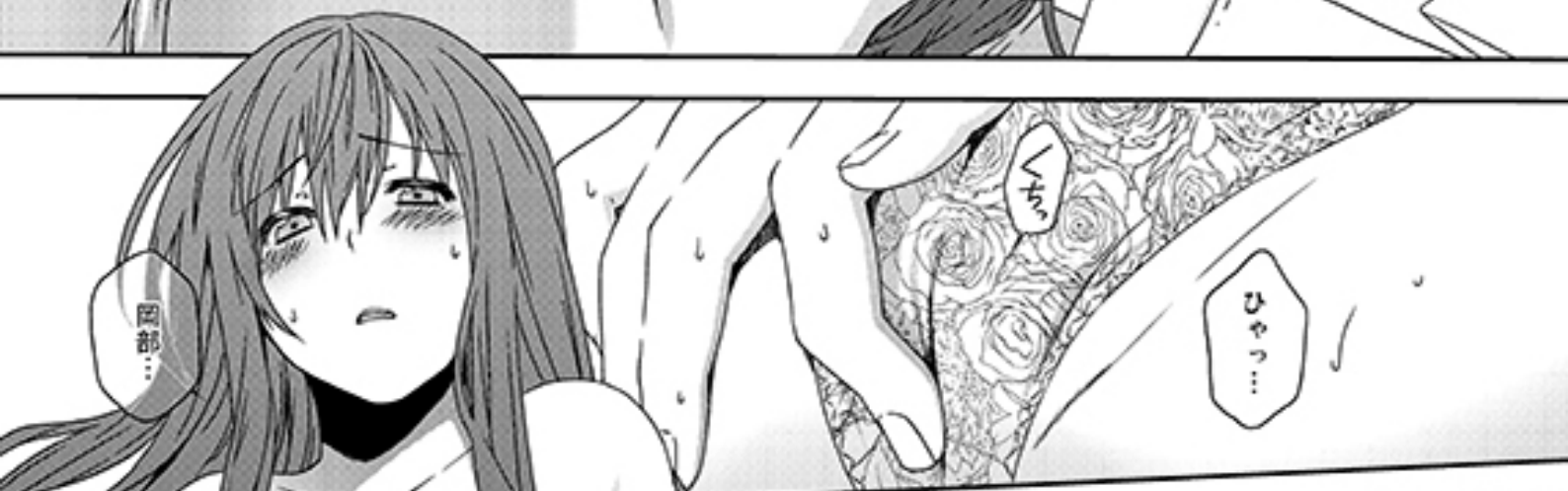


















岡部と初めて
会った時から
たびたび感じる

既視感



は……

は……

まただ



私は

岡部のこの表情を
識っている……？



ごめんな、
紅莉栖……

こんな
つもりじゃ……

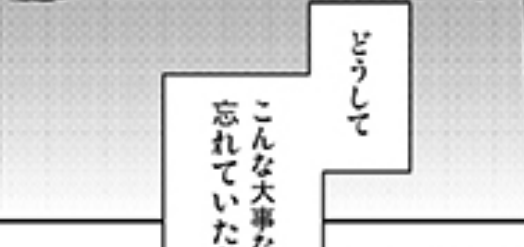
なん……で……



岡部？



…紅莉栖？



どうして

こんな大事なことを
忘れていたんだろう



……



ねえ 岡部



なんで…

は、は、は、は、
は、は、は、は、
は、は、は、は、

バカどもには、
ふさわしい末路だ、
は、は、は、は、



え…

ラジ館で



私、思い出したよ



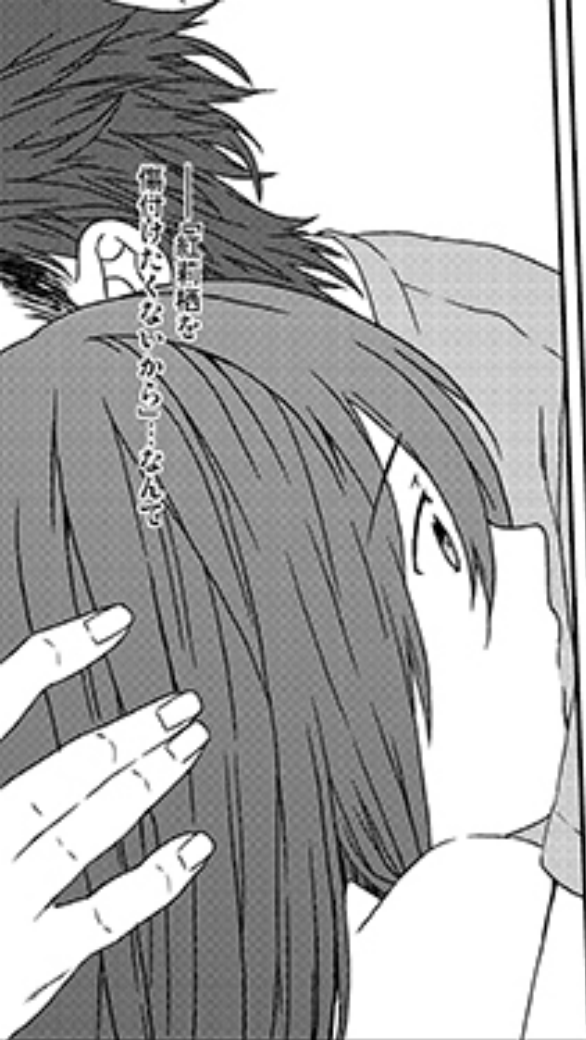
あんたが私を守ろうと
してくれたこと

私がパパをかばって、
あんたに刺されたこと



ごめんね

ずっと、気付いて
あげられなくて…



——紅莉栖を
殺したくないから——なんて



やめてくれ

謝らなきゃいけないのは、
俺のほうだ



ごめんな
紅莉栖！

彼女に幻滅されるのを
恐れただけ



我ながら卑怯な
言い訳だ



ごめんな

俺はただ、彼女に
嫌われるのが怖かっただけ





ねえ

だからね

あんなに頑張った
岡部が、辛いはず
ないんだよ

だから私は、
生きてられるんだよ…



どっちがだ



本当にお前は

どうしようもない
お人好しだ…





あんたが
何を見て…

何を聞いて

何を感じたのか…
教えてほしいの…

岡部のこと…
ちゃんと好きに
なりたいから



紅莉栖…



ねえ、岡部



私はここに
いるから

どこにも
行かないから…ね？



大丈夫



ねえ
だから



むじゅ...
ちゃんと
触って?



私が生きてるって...
ここにいてるって...
確かめて?



濡れている...

おは...

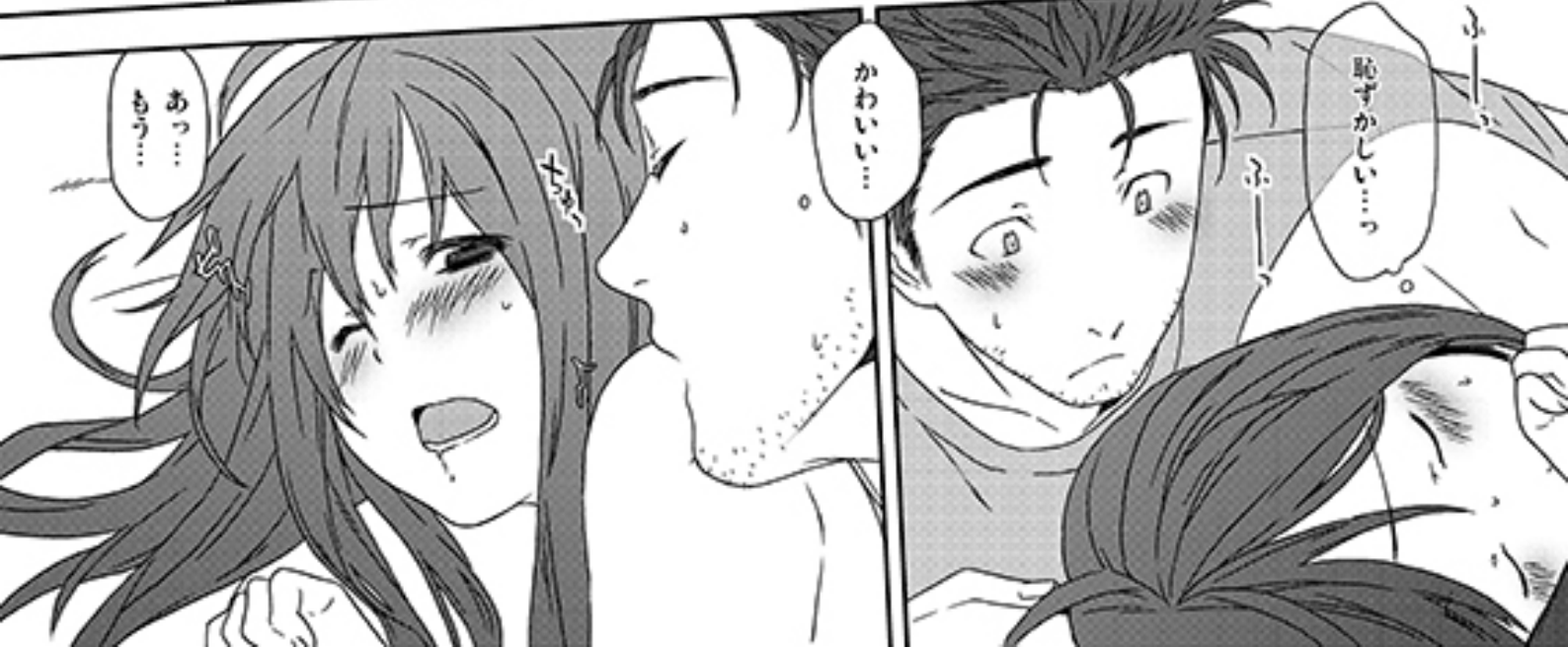
あ

言うな、バカミツ

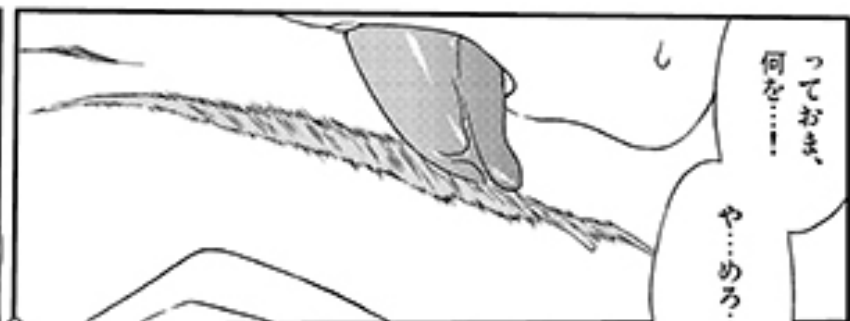
あ

あ

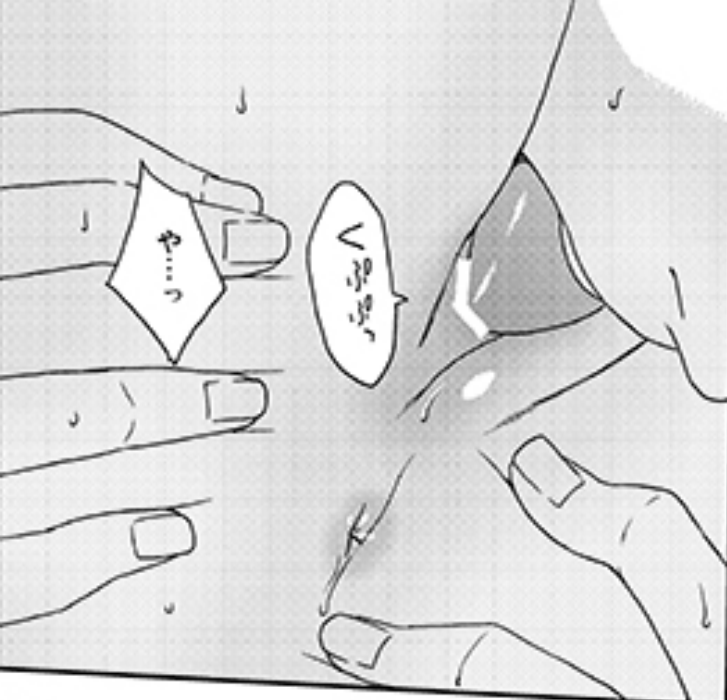














あっ…

その…
そろそろ…だな

な、何で…

……

おっ!



これ、私に
いれさせて…

ねえ、岡部



紅莉栖...
無理はするなよ

う...ん

ほ...ん

う...ん...ぐ...ッ

ふ...っ...





ね、回郎、
気持ちいい…？

んんん…

んんん…

おい！
無理は…！



んんん…

んんん…



ああ、俺は、
すごい…！



紅莉栖

…

よかったあ…



や……

辛いなら、
最後までしなくても……



……痛いんだろ
無理に動くな



ちゃんと、
して……

お、おい……



なら



まったく……
どこまで
強情なんだ、
お前は……



馬鹿ね

私はあんたが相手なら、痛くたって、苦しくたって、
かまわないのに——





大丈夫か？

ん…

岡部が、大分ほぐしてくれただから…

はあ、



無理
しやがって…

…ッ



奥、入れるぞ…



あ…











情けない…

初めてが、
こんなに緊張する
なんて思わなくて…



ねえ

岡部…

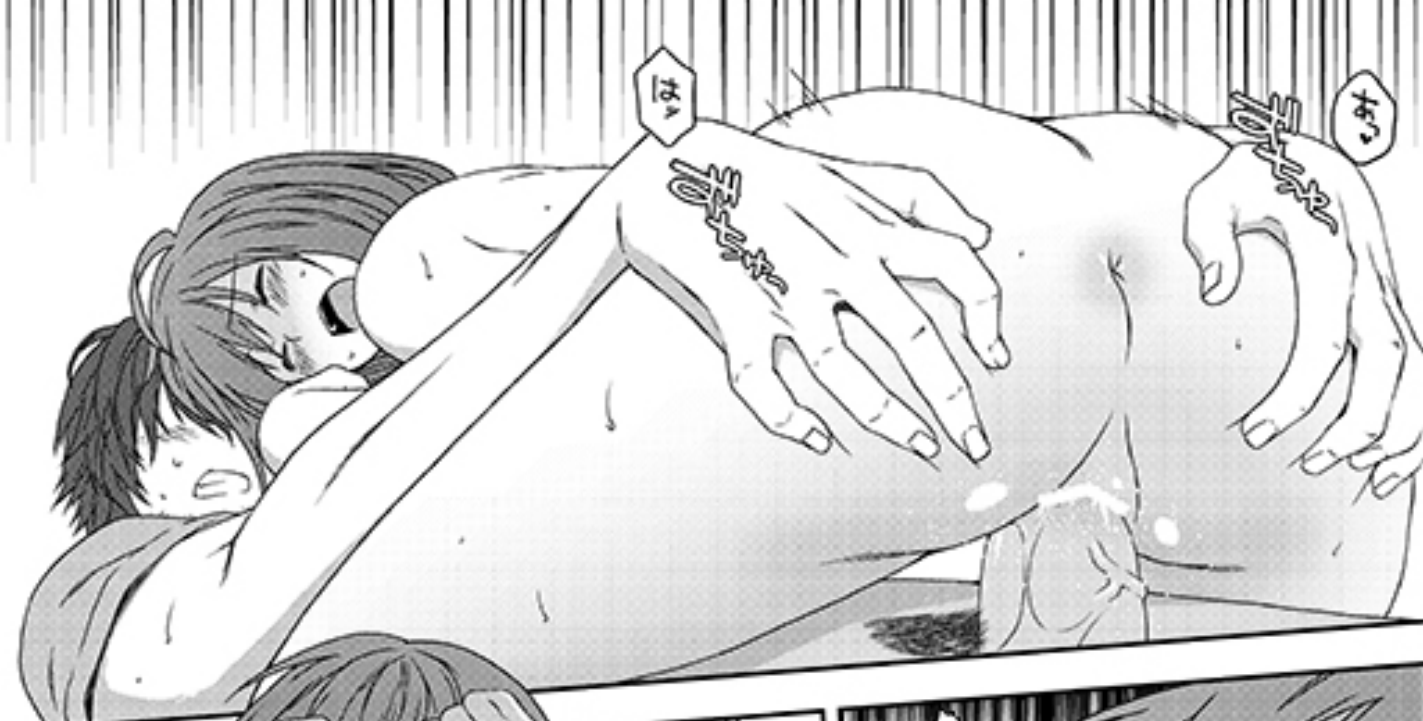


これ、取ったら…
気持ちよくなれる？









きゅん...
出る...



紅莉緒っ
紅莉緒っ...



この
ハジメ...

ッ!?
おい、
やめ...

アム...

紅莉栖...っ、
もう、離れろッ！

アム...

アム...

アム...







フッ



嫌じゃないの？

おかしいことを
言うな

不安か
どうかならともかく、
何故嫌う必要がある



結構なことだ、
我が10170の頭脳を以て
受けて立とうではないか



私みたいに論破癖が
あっても？



貴様、
今鼻で笑ったな!?

でも



何よそれ

なっ…

ありがと

!

紅莉緒

—腕の中にある鼓動が、

温もりが、

その全てが教えてくれる

—彼女が生きていることを



